

授 業 科 目 名	音楽と遊び	教 員 名	日高 まり子	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	演習	担当形態	単独		保育士	必修
					こども音楽療育士	
科 目 番 号	HY0102	配当年次	1年後期	卒 業 要 件	小幼コース	必修
単 位 数	2単位				幼保コース	必修
科 目 目 的	大学が独自に設定する科目（幼稚園）					
施 行 規 則 に 定 め る 科 目 区 分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標 到 達 目 標	<p>(1) 幼児教育、児童教育で使う、子どもの発達に応じた遊び歌を修得する。</p> <p>(2) 絵本読み聞かせの際に適切な音や音楽をつけて演じることができるようにする。</p> <p>(3) パネルシアターやエプロンシアターを演じることができるようにする。</p> <p>(4) ピアノを弾きながら指導する基礎的な能力を培う。</p> <p>(5) 幼児教育や児童教育で使う打楽器等の楽器や教材を活用した指導ができるようになる。</p>					
授 業 の 概 要	<p>本授業では、子どもの発達に応じた目的にあった様々な音楽活動を実践し、音や音楽を五感で感じる中で、それらが幼児の心身の発達に関係することを学ぶ。また、発達に合った遊びを学生自らがアクティブラーニングとしてグループ活動を展開する中で、子どもの主体的な表現を促す手法を習得する。さらにその表現に必要なコード理論、音楽理論、幼児の発達についての知識を修得し、0歳から6歳までのこどもの心身の発達の一助となる音楽遊びについての様々な知識と技能を体得する。</p>					
ディプロマ・ポ リシーとの関係	<p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授 業 計 画	<p>第1回：オリエンテーション 到達目標を視聴覚教材、指導者の手遊び歌・パネルシアターなどの実演によって明確にする。 0歳から6歳までの子どもの発達の学習について見通しを立てる。（目標(1)）</p> <p>第2回：子どもの発達と音楽 0歳から1歳までの子どもの発達を授業外に調べ、視聴覚教材で子どもの音楽遊びを視聴し、基礎的な知識を得る。子どもの発達にあった「ゆらゆらたんたん」「たまごをパカ」他多くの遊び歌の演習を行う。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第3回：手あそびの実際① 「ゆらゆらポート」「がたがたバス」「むすんでひらいて」他多くの、2歳までの子どもの発達に合ったあそびうたを演習して、保育者とのふれあい遊びの表現法を学ぶ。コードによるごく簡単な伴奏法を学習する。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第4回：手あそびの実際② 「あたまかたひざポン」「げんこつ山のたぬきさん」「パンダコアラうさぎ」「フリフリダンス」他多くの、3歳以上の子どもの発達に合ったあそびうたを演習して、保育者とのふれあい遊びの表現法を学ぶ。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第5回：保育に使う楽器の奏法① 「大きなたいこ」を使って大太鼓、小太鼓の強さの変化を知り「あわてんぼうのサンタクロース」によって、すず・たいこ・カスタネット・タンブリン等を子どもの歌にどのように使用するか演習する。また、声だけでなく、打楽器によってさまざまな事象を表現できることを、ともに遊ぶことを通して学習する。（目標(1), (3), (4), (5)）</p> <p>第6回：保育に使う楽器の奏法② 子どもの歌の表現力を高める様々な教育打楽器を使った遊びを考えて作り、グループ発表する。（目標(1), (3), (4), (5)）</p>					

	<p>第7回：第1回実技試験 第6回までに実施した遊び歌の実技試験を実施する。（目標(1), (4), (5)）</p> <p>第8回：絵本の音付け① 教師による音付きの絵本よみかかせの実演を鑑賞したのち、学生が選んだ絵本により、ピアノや打楽器による効果音付の絵本読み聞かせの演習を実施する。（目標(1), (2), (4), (5)）</p> <p>第9回：絵本の音付け② これまでに学んだコードによる伴奏法、音つけの技法、あそびうたを総合的に盛り込んだ絵本読み聞かせをグループで発表する。（目標(1), (2), (4), (5)）</p> <p>第10回：楽器の演奏① 身体の動きや様々な素材と音との関係を知り、タンタンタンとタンブリンをたたいて、相手に応答させる等の、楽器による即興演奏で、音によるコミュニケーションを体験する。（目標(1), (5)）</p> <p>第11回：楽器の演奏② これまでに修得したコード理論を使い、「とんでったバナナ」を課題曲として、様々な素材や楽器を加えた即興的な合奏を考え、グループによる合奏の発表を行う。（目標(1), (2), (4), (5)）</p> <p>第12回：グループによるあそび指導① これまでに学んだコードによる伴奏法、音つけの技法を総合的に盛り込んだ、「ちいさな庭」「やまごやいっけん」「3びきのこぶた」等の室内音楽遊びをグループで発表する。（目標(1), (2), (3), (4), (5)）</p> <p>第13回：グループによるあそび指導② これまでに学んだ様々な技法を総合的に盛り込んだ「アブラハムの子」「ホホホ」「おにのパンツ」等の屋外音楽遊びをグループで発表する。（目標(1), (2), (4), (5)）</p> <p>第14回：本講義で学んだ遊び歌をすべて暗記して歌えるようにする。（目標(1), (2), (3), (4), (5)）</p> <p>第15回：第2回実技試験 本講義で学んだ遊び歌を、保育現場を想定して演じる。（目標(1), (2), (3), (4), (5)）</p> <p>定期試験：子どもの発達と音楽あそびについての筆記試験を実施する。</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>学則に基づき、定期試験50%・共通歌唱教材コード伴奏によるピアノ弾き歌い演奏30%・共通歌唱教材のリコーダーによる演奏20%により評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
<p>時間外の学習について</p>	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、次回の発表に備える。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに何を練習するかを確認する。</p>
<p>テキスト</p>	<p>『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』（教育芸術社）</p> <p>『こどもの歌ベストテン』（ドレミ楽譜出版社）</p> <p>『うたっておどっておもちゃ箱1・2』（教育芸術社）</p> <p>『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>『幼稚園教育要領（平成29年告示）』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』</p> <p>『保育所保育指針（平成29年告示）』</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>教具として、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーを使用する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）</p>